

令和7年度(2025年度)とうきょう すくわくプログラム活動報告書(八王子市)

施設名	幼保連携型認定こども園まごころ保育園
担当者名	長田 大/年長担任

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（お米の栽培、収穫、脱穀、試食）

<テーマの設定理由>

陶芸体験を通じ「自分たちの作ったお茶碗でご飯が食べたい」という思いが湧き「自分たちでお米を作ってみよう」ということから探求が始まった

2. 活動スケジュール

R7.5月 種もみを発芽させる 田植え用のバケツ準備
R7.5～6月 田植え用の土づくり
R7.6月 保育参加にてお茶碗づくり
R7.9月～10月 稲刈り
R7.11 脱穀
R7.12 試食

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

種もみ バケツ 土 ネット プロジェクター アドバイザー 陶芸粘土等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

陶芸でお箸置き、お茶碗を作るため、年度遊びの活動を取り入れ粘土のお茶碗づくりを試行錯誤しながらおこなった。お米作りでは稲のことやお米作りに必要なことを農家さんの協力のもと調べていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

一粒の種もみが発芽したときは「お米から芽が出た」「すごい」とおどろいていた。田植え用の土づくりは半日かけて土をこね「お米づくりは大変だ」「すぐにできないだね」とお米作りの大変さを感じながらも活動を楽しむ。ニュースで『雨が降らない、猛暑、お米が育たない』ということを知り、稲バケツの置き場所を変えるなどの工夫する姿もみられた。保育者と協力して毎日の水やりなど自主的に行っていた。



5. 振り返り

保育士も初めてのお米作りと陶芸活動。子供たちと同じ目線で一緒に感動することができた。子供たちの「なぜ?」「どうして?」と保育士の「なぜ?」「どうして?」がおなじであり。ともに考え学ぶ経験から探求する楽しさや難しさを感じることができた。特に印象に残っている活動は「脱穀」であった。なかなか上手に脱穀できず様々な道具を使っでの試行錯誤であった。上手に脱穀できた時の子供たちの達成感からくる笑顔が印象的であった。

<振り返りによって得た先生の気づき>